

『 交際費の金額の目安 』

平成22年7月16日
西宮市愛宕山6番52号
安永税理士事務所
<http://an-ei.com/>

創業したての若い社長さんから、“交際費はどのくらい使って良いですか？”という質問をよく頂きます。本来的には、会社が営業上必要不可欠であると判断した金額を交際費として支出すべきものです。

しかしあまりにも多額の交際費を使っていると、決算書の書類上でも何かと目立ちます。同業他社に比べて交際費の割合が突出して高いと、税務署が注目する可能性もあります。やはり世の中の平均や、目安の金額は気になるところです。

そこで、国税庁が毎年発表しております“会社標本調査”というものが、ひとつの目安になります。これは、全国約260万社の法人の申告データを集計したものです。平成22年3月に発表になった直近の数字は以下の通りです。

1. 法人の一年間の交際費の支出状況

資本金階級	交際費等支出状況		
	支出額合計	1社当たり平均	収入10万円当り交際費
	(億円)	(千円)	(円)
1千万円未満	7,481	499	631
1千万円以上5千万円未満	12,210	1,221	363
5千万円以上1億円以下	2,621	3,786	160
1億円超 10億円未満	2,742	12,758	169
10億円超	7,207	103,579	113
合計	32,261	1,242	227

資本金1千万円未満の小会社の場合、年間の交際費支出額は50万円程度が平均です。ただ最近では、一人当たり5千円以下の飲食費は交際費から除かれております。実際の交際に関する費用はもう少し多いかもしれません。

また、交際費の金額だけでなく、営業収入(売上)10万円当たりの数字も発表されております。10万円の売上を上げるのに交際費をいくら使ったかの割合で、より重要な指標と考えられます。

資本金1千万円未満の小会社の場合、総売上高の0.6%程度の交際費が平均といったところです。具体的には、会社の売上高が1千万円なら6万円、5千万円なら30万円程度です。

2. 業種別の交際費等支出額

業種別に集計したデータも公表されております。

建設業、不動産業は多く、小売業、金融保険業は少なく、業種によるばらつきの大きさが分かります。

業種区分	交際費等支出状況		
	支出額合計	1社当り平均	収入10万円当り交際費
	(億円)	(千円)	(円)
建設業	5,616	1,310	547
不動産業	1,649	598	478
出版印刷業	645	1,632	424
料理飲食旅館業	725	600	369
サービス業	5,158	896	309
運輸通信公益事業	1,696	2,011	184
金融保険業	870	1,946	161
小売業	1,946	554	157

3. まとめ

これらの数字はあくまでも、全国の法人の平均的なものです。

それぞれの会社にとって適切な交際費の水準は、規模や業種、業歴、経営実態によってまざまです。

自社の交際費が全国平均と比べて多いとしても、きちんと説明出来る経費であれば問題ありません。

また、往々にして、規模の小さな会社ほど交際費の比率は高くなる傾向にあるように思います。

目安となる数字を頭に置きながら、営業上必要な経費はきっちり計上するという姿勢が必要かと思われます。